



鋸山日本遺産候補地域認定応援企画 第1弾



切り立った岩肌が特徴の鋸山。かつては建築資材などとして盛んに採石が行われていたため、岩が露出した鋸のような山となりました。その見た目から鋸山と呼ばれていますが、正式名称は、乾坤山(けんこんざん)と言います。展望台からの眺めは素晴らしく、遠くは富士山、伊豆大島から東京湾一体を見渡すことができます。

▶山は凝灰岩から成り、建築などの石材として適している。そのため古くは房州石と呼ばれ、良質石材の産地として、江戸時代から盛んに採石が行われた(石切場跡が現存する)。結果、露出した山肌の岩が鋸の歯状に見えることからこの名で呼ばれるようになった。

★鋸山復興プロジェクトホームページにて拡大地図のダウンロードができます

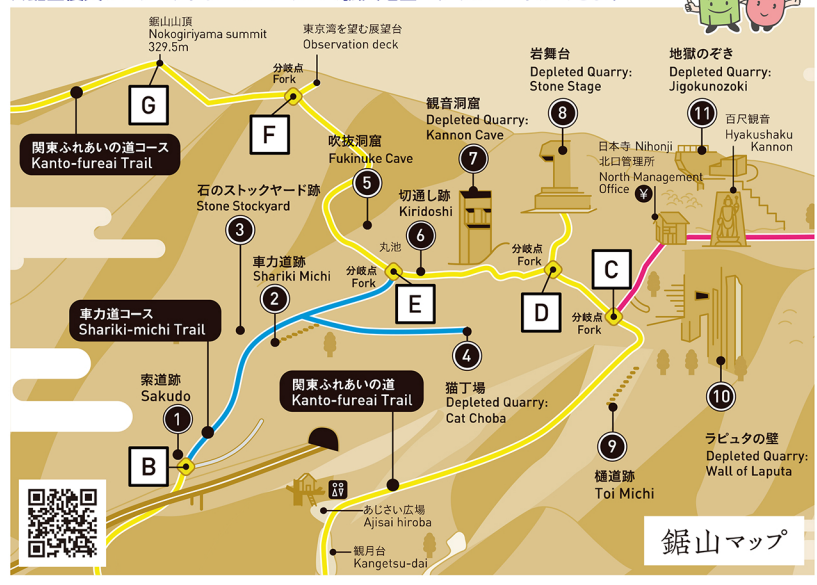
〈服装・履物について〉

運動靴・登山用の靴 帽子 両手があくリュック 飲み物 タオル

(※登山道上に飲料の自動販売機はありません。自動販売機があるのは、ロープウェイ山麓・山頂駅・日本寺西口管理所前・日本寺大仏広場のみです。)

〈登山のマナーと諸注意〉

- 15時を過ぎての入山はなるべくお控えください。とくに冬季はロープウェイも16時で終了します。暗くなると現在地や方向を見失う恐れが大きくなります。
- 登山前に登山計画書の提出をお願いします。JR浜金谷駅、金谷ステーション、東京湾フェリー金谷港に設置してあります。
- 富津市観光協会公認ルートをご利用ください(車力道、関東ふれあいの道)。その他のルートは、崩落、未整備箇所などがあり、危険を伴う場合もあります。
- 国定公園内のため、クライミングは禁止されています。
- 国定公園内のため、火気、キャンプは禁止されています。
- 安全面の理由より、鋸山ロープウェイ及び日本寺敷地内はドローン禁止となっています。それ以外の場所についても、私有地が多く点在しており、また、多くの登山客の安全の確保・文化財保管のためドローン撮影は禁止とさせていただきます。(富津市観光協会金谷地区)



索道跡※鋸山マップ内①

「索道跡」は、山頂域の石切り場と麓をワイヤーケーブル(索道)で繋いだ、石材運搬システムの跡です。急勾配の「鋸山」から房州石を産出することは、現地の遺構、歴史的資料等が示すように、大変な重労働でした。この山麓に残る「索道跡」は、「索道」の終点で、段差にトラックの荷台を付けて石材を積み込みました。



猫丁場(ねこちょうば)※鋸山マップ内④

鋸山には、石切り場跡が数多く存在し、そのなかに車力道の山腹付近に「猫丁場」と呼ばれる石切り場があります。山の中腹にある石切り場は、これまで見学できる場所がありませんでしたが登山道、および石切り場周辺の整備を終え、見学が可能になりました。終点の石切り場の名残のある石壁には、名前の由来となった猫が彫られています。



樋道跡(といみちあと)※鋸山マップ内⑨

鋸山の山頂域の石切り場から切り出した石材は、まず「樋道(といみち)」という石の滑り台を滑らせて山腹へ下ろします。「樋道」には必ず石段が併設されます。石段は、石材が滑り降りる速度を調節する作業者の足場になり、麓から石切り場まで朝晩往復するための通路としても使われました。

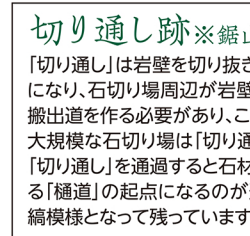


車力道(しゃりきみち)※鋸山マップ内②

江戸時代から昭和60年まで「房州石(ぼうしゅういし)」を切り出していた鋸山。石切りは男性が行い、車力(しゃりき)と呼ばれる女性が石を籠まで運んでいました。機械化された昭和35年頃まで1本80kgの石3本を籠まで運ぶ作業を1日3往復も行ってました。現在も残るその道の事を「車力道(しゃりきみち)」と呼んでいます。ルートには、石畳と車力達が石を運ぶ時に使用した、ネコ車(ねこぐるま)とよばれる荷車の轍(わだち)が残され、石切場跡には荷下ろし場や、機械化がされた当時の重機が残っており、当時の様子を偲べます。現在では産業遺産として改めて注目されている場所です。

房州石 (ぼうしゅういし)

鋸山は、火山噴出物が海底で長い年月をかけて固まった凝灰岩でできています。加工しやすくまた耐火性があり電や七輪などにも使われ庶民に親しまれました。「房州石」と呼ばれたこの石は建築資材に適し、江戸時代中頃から明治から大正にかけての最盛期には年間約56万本が切り出されました。今でも麓の町金谷では、石塀、門柱、蔵、建物の土台、灯籠などに房州石が使用されています。また、横浜の開港、台場の整備、皇居の造営など、東京湾岸の土木建築工事に使用され、日本の近代化を土台から支えました。



切り通し跡※鋸山マップ内⑥

「切り通し」は岩壁を切り抜き作った道です。採石する際、良質な石材を求めて切り下ることになり、石切り場周辺が岩壁で囲まれた状態になります。そのため、石材やズリ(石の屑)の搬出道を作る必要があり、これを「切り通し」と呼び鋸山の至る所でみることが出来ます。大規模な石切り場は「切り通し」を伴うことが多く、これを地元では「口抜き」と言いました。「切り通し」を通過すると石材を集積する「平場」があり、そこが石材を滑り下ろす滑り台である「樋道」の起点になるのが通例です。「切り通し」両側の壁面にも、石を切り出した跡が横縞模様となって残っています。



岩舞台 ※鋸山マップ内⑧

鋸山には、大小規模の「石切り場跡」が数多く点在しています。産業としての採石は江戸時代後期から始まり、最盛期には30軒ほどの石の元締めがあり、金谷は石の町として栄えました。この岩舞台は、昭和60年まで採石を続けた最後の石の元締め、芳家石店(鈴木四郎右衛門家)の石切り場跡です。「安全第一」の文字の上あたりで、ツルハシで切った跡からチェーンソーの跡に変わり、機械化された昭和33年当時の石切り場がその高さであったことがわかります。

①鋸山・車力道 ハイキングコース 約6km

鋸山の切り立った岩肌の下を散策するコースで、昭和61年頃まで石切り職人が山の石を下ろした道です。

富津市観光協会公認ルート

②車力道 → 洞窟 → 溜め池 → ⑧石切り場跡 → 日本寺北口料金所 → ⑪地獄のぞき → 山頂展望台 → ロープウェイ → 日本寺北口料金所 → 観月台 → 浜金谷駅

②関東ふれあいの道 「東京湾を望む道」 約8.4km

常緑樹を中心とした深い樹林帯が続く自然観察を楽しむながら山歩きのできるハイキングコースです。

浜金谷駅 → 関東ふれあいの道 → 観月台 → ⑧石切り場跡 → 地球が丸く見える展望台 → 鋸山山頂 → 東の肩 → 林道口 → 保田駅